

第24回 MQI活動

平成31年度
MQI統一主題

役割認識 —なすべきことを実行する—



発行(公財)練馬総合病院MQI推進委員会
〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1
Tel.03-5988-2200(代)

平成31年度 MQI活動 キックオフ 推進委員長 柳川 達生

第23回医療の質向上活動(MQI)は平成30年12月1日に45名の外部の方を含め148名が参加し盛大に開催しました。今回はMQI 7チームと改善プロジェクト1チーム計8題の発表で活発な質疑が行われました。進捗がおもわしくないチームもありましたが、最終的には驚異的な追い込みでゴールしました。さて安堵もつかの間、24年目の活動が始まります。今年度の統一主題は「役割認識 —なすべきことを実行する—」です。MQIの遂行は大変ですが、業務改善、職員の業務遂行能力、管理能力の向上、部署間の調整の推進という目的があります。重要な目的があるからこそ困難を乗り越えて活動を推進していく必要があります。チーム員のみならず職員の皆様の積極的関与を期待します。本年度はさらにステップアップさせ病院を発展させていきましょう。

平成31年度 MQI推進委員会メンバー紹介

委員長：柳川 達生（副院長・内科医師）

副委員長：金内 幸子（薬剤科）

事務局：北村 智弥（庶務課）， 小林 裕子（質保証室）

委員：小谷野 圭子（質保証室）， 橋本 健太郎（リハビリテーション科）， 田村 美紀（5階病棟）， 近藤 拓也（医事課）， 安藤 敦子（2階病棟）， 喜多 哲史（内視鏡センター）， 小林 陽子（臨床検査科）， 堀 裕士（質保証室）， 中島 みゆき（薬剤科）， 山崎 勝巳*（臨床検査科）， 圓山 隆昭*（放射線科）， 二石 京子*（4階病棟）

今年度のMQI活動

*:新メンバーです！
よろしくお願いします。

3/20	4/12	5/11	6月後半	8月	10月	11月	12月
キックオフ	エントリー×切	1日で計画を立てる会	チーム別相談会①	チーム別相談会②	予演会	発表スライド×切 報文集作成	発表大会 継続フォローの会

24年目となるMQI活動がスタートします。

エントリーシートの提出×切は4/12（金）12:00です。

職員はより仕事しやすく、患者さんにはより質の高い医療を提供できるよう、多数のチームの参加をお待ちしています。

今年も昨年同様に、発表大会に報文集（活動完了報告）を配布する予定です。11月には報文集を完成できるよう、計画的に活動を進めましょう！

平成30年度 MQ I 継続フォローの会 2018/1/28, 2/4

テーマ・チーム名/ 主体部署・参加者 (◎リーダー、※推進委員)	現在の状況 及び 今後の活動
<p>低栄養の患者をNSTに抽出するしくみを再構築する (美食倶楽部2)</p> <p style="text-align: center;">栄養科・NST委員会 ◎乾 美奈子 ※橋本健太郎</p>	<p>今回構築した抽出の仕組みで現在も活動は続けており、今のところ低栄養患者の抽出漏れは発生していません。これからも引き続き活動を継続し、今後は、その後の変化をどうやって追っていくかの検討をしていきたいと考えています。</p> 
<p>電話対応時の保留時間を短縮する (みんな楽々練Phone8)</p> <p style="text-align: center;">事務部 ◎増井身和 ※近藤拓也、北村智弥、堀裕士</p>	<p>今回の活動で、他部署との連携により、電話対応時の保留時間を大幅に短縮する事ができました。現在も概ね継続されておりますが、部署・職員によっては継続されておらず、保留時間が長くなり、迅速に対応できていません。今後も定期的に調査を行い、改善し継続していきます。</p> 
<p>外来患者がどの受付窓口へ行けばいいのかわかるようにする (江古田のヒッキー)</p> <p style="text-align: center;">放射線科 ◎新貝高弘 ※松尾道暁、堀裕士</p>	<p>フォローの会を通じ、自分たちがやった活動の成果と今後の課題が改めて見えてきたと思います。活動は終わりましたが、出てきた課題についてはチームでもう一度考え、対応をしていきます。今後もよろしくお願いします。</p> 
<p>EUS-FNA後の患者管理を適切に行う (アップル)</p> <p style="text-align: center;">内視鏡センター ◎小林佳奈 ※喜多 哲史</p>	<p>フォローの会では、活動後の検査の実施がありませんでしたが、後日検査があり、日程表が患者さんに説明しやすく、役立った・不備もなく、順調に看護できたと思いを頂きました。今後、必要時修正できるよう、経過を確認していきたいと思います。</p> 
<p>細菌感染の治療に有用な情報を迅速に提供する ～細菌検査業務の見直し～ (ホワイトベース)</p> <p style="text-align: center;">臨床検査科 ◎中里光宏 ※小林 陽子</p>	<p>日直業務に入る全ての技師が、血液培養陽性時にグラム染色を行い臨床に報告できるようになりました。今後は症例について検査科勉強会を開催したり、サーベイに参加して精度の向上に努めます。</p> 
<p>入院前から予約入院患者に関与する仕組みを作る (Sweet Home)</p> <p style="text-align: center;">看護部 ◎永田千香子 ※田村 美紀 安藤 敦子</p>	<p>フォローの会では、現在の継続活動の進捗報告をさせていただきました。どのような方法が、ベストか、常に振り返り評価を行い、活動継続のための努力をしていきたいと思えます。今後も入院前からの患者の情報を把握し看護に活かせるよう努力いたします。</p> 
<p>薬剤耐性対策のために抗菌薬の適正使用を推進する (アムロいきまーす)</p> <p style="text-align: center;">薬剤科・感染対策委員会 ◎岡部真希 ※中島みゆき</p>	<p>継続フォローの会では、培養結果を活用するにあたり、薬剤師目線で困っていることなどを相談させていただきました。今後も、医師、検査科と協力して抗菌薬適正使用を推進していきたいです。</p> 